

授業科目名	保育実習Ⅲ		担当教員名	小島 知子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	保育実習	
必修・選択/単位数	選択 / 2単位 (80時間)	授業方法/担当形態	実習 / 単独	
開講学年/学期	2年 後期 (3-4期) / ※令和8年度は開講しません	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 乳児院、児童養護施設、児童家庭支援センターにて児童指導員、心理療法担当職員として、また幼稚園等でのカウンセラーとしての実務経験を生かして授業を行う。	
授業の概要及び全体目標	「保育実習Ⅲ（施設実習 2 単位）」は、保育実習Ⅰの福祉施設実習の経験を基にして、発達障がい施設等の実習を中心に利用されている方の処遇や援助の方法並びに、記録の取り方などを実践を通して学習し福祉の課題を考える。			
到達目標	(1)保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 (2)実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 (3)保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 (4)保育士の専門性と職業倫理について理解する。 (5)実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする			
テキスト	「実習ハンドブック」大阪教育福祉専門学校編著			
参考書・参考資料等	保育所保育指針（厚生労働省） 月間 保育とカリキュラム（ひかりのくに）			
成績評価の方法	事前の書類（オリエンテーション報告書等）提出の状況、実習中の状況（巡回指導時の状況も含む）、実習への出席状況、実習先からの実習評価、実習の記録の提出、事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況、実習の記録の記述内容を以下の通りに評価する。 保育実習においては、実習園の評価点（65%）、事前指導、事後指導及び実習記録等の評価（35%）			
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等				
授業計画	授業の内容		到達目標番号	
第1回	○総合段階 (1)指導計画を立てる (2)保育目標に向かって、「ねらい」を確かめつつ、活動を展開する ○実施時期・期間：2年 10月・10日間 ○対象児(者)：児童～成人			